



## 欧州学会CIRSE2016にて 自作アプリが最優秀賞

放射線科 IVR科 部長 平田 雅昭



CIRSEはIVR(画像下治療)関連で世界最大規模の国際学会です。今年も各国から約7,000人の参加者があり、基礎から最新の知見まで幅広い分野の講演が行われました。機器展示も規模が大きく、国内にまだ導入されていない最新の器具、機器の情報も得ることができます。

このたび私が開発したスマートフォンアプリである「Smart Puncture」についての発表が、600を超える演題の中から「Magna Cum Laude」(最優秀賞)に選ばれました。日常的に用いているスマートフォンをCTガイド下穿刺補助デバイスとして使用するという内容です。

視認性の良い液晶、モーションセンサー、高い処理能力、携帯性から、「スマートフォンが穿刺補助デバイスとして機能する可能性がある」と思い至り、プログラミングにチャレンジしました。2年前

より開発をはじめ、当院での使用経験から機能をブラッシュアップし、穿刺精度の評価実験を加え報告しました。

アプリは無料であり、世界中でダウンロードされています。おそらく、どこかで誰かの役に立っていると思います。

スティーブ・ジョブズに関する書籍によると「イノベーションとは、既存の知識を結び付け新しい技術に昇華させる作業」だということです。医療の進歩は我々医療人の努力によってのみ達成されている訳ではなく、アニメーションやゲーム産業など、一見無関係と思われる分野の発展の恩恵を実際に受けています。

初めて自分のアプリを使って穿刺を行ったとき、普段当たり前のように使っている道具に思わぬ利用方法があることに自分自身が驚き、垣根を越えた幅広い視野と柔軟な思考がイノベーションには必

要なのだ実感しました。

当院では2016年4月にIVR科が発足しました。カンファレンスも充実し、多数の症例に関わり着実に前進しています。世界に向けて情報を発信できた今回の受賞は幸先の良い出来事でした。これをバネに、県内有数のIVR施設を目指し日々研鑽を重ねていきたいと思ひます。お役に立てることがあれば、是非お気軽にご相談ください。



会場機器展示ブース



幻想的なサグラダファミリア内部



## 図書室から医療を支える

総務課 図書室 司書 松長 聡美



当院図書室は、職員・地域医療従事者専用で、迅速かつ適切な医学・医療情報の提供を目的としています。医学・医療・看護系雑誌の最新号100誌以上を揃え、電子ジャーナル・データベースなどを整備し、最新の情報を提供しています。

また、利用者の相談に応じ、インターネットで文献検索をしたり、図書室内の資料を調べたりしています。時には、多忙な中で効率よく論文を探せるよう、即席の文献検索ガイダンスを行うこともあります。院内に求める文献がない場合、全国の病院図書室や大学図書館から複写を取り寄せた

り、近隣の図書館の所蔵を調べたりと、できる限り利用者の要望に応えられるように努めています。図書を購入したい場合には、書店への取り次ぎも行っています。

昨年は、雑誌の整理、本棚の地震転倒防止工事などを行いました。閲覧スペースも明るく広くなり、電子カルテを前に、熟練医師が若手医師と並んで教授する姿が見られ、頼もしく思います。

医療の現場は日進月歩。高度化・専門化に素早く対応するため、当院職員は図書室を活用し、日々研鑽を重ねております。

病院図書室は、診療・教育・研究支援を

行う場所です。医療従事者が良質な医療を行うことができ、さらには医療の発展に資することができるよう、貢献していきたいと思ひます。

